

研究No. (記載不要)	15 - 学 - 9
-----------------	------------

平成 15 年度特別研究費 研究成果の概要

研究名	コミュニケーション・デザインからみた都市、芸術・文化のあり方に関する研究(3)				
配分を受けた特別研究費	学長特別研究費 (種類:その他) 720千円				
研究者氏名 (代表者)	学部名	学科名	職	氏名	共同研究の場合の分担
	文化政策	文化政策学科	教授	阿蘇 裕矢	特別講義「都市文明論」の内容等に関する分析
共同研究者	文化政策	芸術文化学科	講師	谷川 真美	「芸術と文化」の分析
発表の方法	1 紀要 なし			号数	第 ( 年 月 発行)
	2 学会等での発表 学会等名: なし			発表日 (発表 予定日)	平成 年 月 日
	3 その他 発表の方法:国際交流委員会等における招聘プログラムの有効性について提案する予定である。			発表日 (発表 予定日)	平成 17 年 5 月 予定

(研究の目的等)

本研究は、三カ年にわたって行った外国からの招聘講義である「コミュニケーション・デザインからみた都市、芸術・文化のあり方に関する研究(3)」の最終である。

そこで、今年度は、都市文明論における「デザインと都市生活」、ならびに芸術と文化の講義について、これまでの総括として取りまとめることとする。特に前者においては、学生の評価・理解についてアンケートに基づき、定量的に分析した。

(研究の実施方法等)

平成 15 年 5 月 29 日 (木)、30 日 (金) に、ジェラルド・キャロン氏を本学に招聘し、それぞれ「都市文明論」(木村学長担当)、「芸術と文化」(深井晃子・谷川真美担当) の講義の中で「デザインと都市生活」ならびに「芸術と文化」について講演してもらった。

二つの講義の内容については、平成 14 年度の報告書に詳述しているが、本年度は、「デザインと都市生活」については、学生へのアンケート調査を行い、その内容から学生の評価・理解の程度を把握することとした(阿蘇担当)。「芸術と文化」については、講評というかたちで記述した(谷川担当)。

(得られた成果等)

両学部を通して 3 カ年にわたって行われた講義を通して、都市とデザインの関係、フランスにおける芸術活動の背景にある歴史性、文化性について一定の理解を得たものと思われる。また、外国で活躍する一線級の専門家を招聘して行った講義は、学生にとって極めて多くのことを与えた。

フランス語の生の言葉から発せられる専門的な知識、プレゼンテーションのテクニックやセンスなど、二つのテーマの講義内容はもちろんのこと、多くの示唆を与えてくれたと思われる、その意味において成功であった。今後、国際的な視野から人選した同様の教育プログラム(特別講義)の実現が期待される。